

【資料】

大学間連携共同教育推進事業の成果概要

—「主体的学び」プログラムを中心に—

中 嶋 輝 明

資料

大学間連携共同教育推進事業の成果概要 ——「主体的学び」プログラムを中心に——

中 嶋 輝 明

Teruaki NAKAJIMA

目次

1. はじめに
2. 「主体的学び」プログラム
 - 2.1 概要
 - 2.2 整備した学習環境
 - 2.3 実施状況
3. 事業成果を活用したその他の教育実践および分析の事例
 - 3.1 学習動機の分析
 - 3.2 北星ピア・サポーター向
けの実践
 - 3.3 IRとしてのデータ活用
4. まとめ

[要旨]

北星学園大学は、平成24（2012）年度に文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択され、事業課題「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」に取り組んできた。この事業の成果の中心は、2014年度より実施している全1年次生を対象とした「主体的学び」プログラムである。本稿では、このプログラムに関し、これまで整備してきた学習環境および実施状況を報告している。さらに、事業成果を活用したその他の教育実践および分析の試行例についてもその概略を報告している。

1. はじめに

北星学園大学（以下、本学）は、平成24（2012）年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業（以下、本事業）に採択され、山梨大学、佐賀大学、愛媛大学、愛知大学、創価大学、千歳科学技術大学（代表校）、および桜の聖母短期大学との連携のもとで、事業課題「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」に取り組んできた。本事業は、大学／短大、国立／私立、および文系／理系の違いにかかわらず求められる、主に初年次・リメディアル・キャリア

教育で使用可能なプレースメントテストおよび学習教材を共同で開発すると同時に、それらを活用した各連携校における特色ある教育実践事例を、そのノウハウとともに共有するものである。5年間の補助金期間終了後、事業継続の協定を8大学間で改めて締結し、さらに発展的な取り組みをこれまで進めてきた。

本事業の成果は、ステークホルダーを通じて他大学にも公開してきた⁽¹⁾。開発した学習教材やテスト等は、ステークホルダーの1つである大学eラーニング協議会の「共通基盤システム」を通じて同協議会の加盟大学も使用可能であるほか、教材データを各加盟大

キーワード：主体的学び、学士力、プレースメントテスト、個票、大学間連携共同教育推進事業

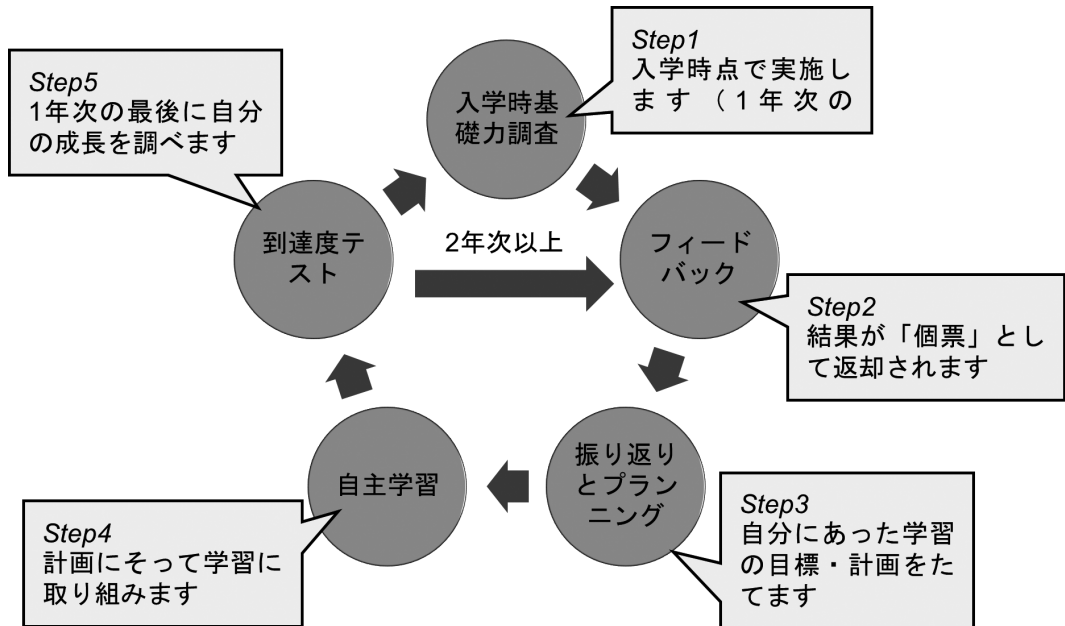


図1 「主体的学び」プログラムの流れ

学内で稼働している Moodle 上に搭載することも可能である。

本事業で共同開発したものは、具体的には、①日本語、英語、数学、情報などの基礎科目に関する大学入学時プレースメントテストおよび学習動機や学習方略などに関する質問紙、②上記科目に関連する学習教材および学習後の到達度テスト、③テスト得点に基づき到達度を把握するルーブリック、ならびに、④テスト結果を学生に返却するための「個票」である。

本学では、これらの事業成果を活用し、2013年度から全1年次生を対象にした「入学時基礎力調査」(以下、基礎力調査)を試行的に実施し(中嶋・片岡・松浦・金子・野原, 2013), その後、これを発展させた「主体的学び」プログラムを2014年度からスタートさせた。

本稿では、2012年度より取り組んできた本事業の成果を概観する。特に事業成果の中心である「主体的学び」プログラムに関し、整備した学習環境および実施状況を報告す

る。さらに、事業成果を活用したその他の教育実践および分析の試行例についてもその概略を報告する。

2. 「主体的学び」プログラム

2.1 概要

本プログラムは、1年次生を主な対象として、正課科目の履修とは別に、すなわち科目の成績評価とは無関係に、自主的な学びを促すことを目的にデザインされたものである⁽²⁾。

図1に全体の流れを示す。学生は、Step1として基礎力調査を受ける。この調査は、日本語、英語(リスニングとリーディング)、数的思考(文系数学)、情報に関するプレースメントテストおよび学習動機や学習方略に関する質問紙からなる。Step2では、基礎力調査の結果が、図2に示すような「個票」として各学生に返却される。Step3では、個票を参照しながら高校までの学びを振り返り、自分の特徴や強み・弱みを知るとともに、今後の大学における学びをプランニングし、それ

学科： 英文学科
学籍番号：2101789

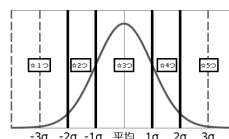
氏名：北星 花子

2021年4月実施

<あなたの科目別基礎力>

標準偏差に基づく☆のルールのイメージ図

	日本語	数的思考	情報	英語
得点	51	82	33	50
学内平均(標準偏差σ)	51.3(13.4)	48.3(28.3)	54.1(17.1)	37.9(14)
学内の受験者数	823	805	843	813
学内での位置	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆	☆☆☆
全体での位置	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆	☆☆☆



☆の数は1～5個の間で変動し、全体での位置は他大学を含めた中でのあなたの順位を大まかに示したものです。以降の結果とあわせて、今の自分の得意・不得意を知ったり、今後、力を入れて学びたい科目や分野を決めたりするときの参考にしてください。平均的な得点の場合は☆3つになります。

日本語

	正解数	問題数
漢字	12	20
語彙	11	30
文法・敬語	6	10
短文読解	7	10

あなたの漢字力は、大学での学習を始めるのに必要なレベルには達していないので、少し基礎的な学習が必要です。また、語彙力、文法力、短文の読解力に関しては、基礎からの学習が必要です。

数的思考

正解数(あなたの正解数 / 問題数)

高校1年生分野: 16/19 高校1年の数学の理解は十分なレベルに達しています。

下記の項目が不正解でした。

式の展開、確率、割合・比率

情報

	正解数	問題数
情報活用の実践力	7	12
情報の科学的な理解	1	15
情報社会に参画する態度	5	13

あなたは、【情報の科学的な理解】について理解が不足しています。特に【系統的・基礎的な学習領域】を中心に学習を行いましょう。

英語

READING: 28点

簡単な語や構文を用いて書かれた文章であれば、実用的・具体的な情報(例えば旅行のガイドブックやレシピなど)を読んで必要な情報を探すことができる。(350-400)

LISTENING: 22点

はっきりと明確な発音で話されていれば、外国の文化に関する説明(例えば外国の行事や習慣など)を、必要に応じて質問をしたり背景知識を活用しながら聞き、概要を理解することができる。(400-450)

「PRISM Violet」から学習を開始してください。

<あなたが見た自分の学びの欲求>

あなたの結果 _____ 全体平均 _____

あなたの結果と全体の平均	
	<p>①頭や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている</p> <p>②生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている</p> <p>③学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を気にしている</p> <p>④自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている</p> <p>⑤将来の生活を豊かにする/将来経済的によい生活をするために学ぼうとしている</p> <p>⑥勉強することや、わかることの楽しさから学ぼうとしている</p>

図2 本事業で開発した「個票」の例

をeポートフォリオの中書き込む。Step4では、プランニングに基づいて授業内の課題や自主学習、また、正課外の諸活動に実際に取り組む。Step5では、学習の成果を確かめるために、1年次の最後に「到達度テスト」を受ける。この到達度テストの結果もまた、基礎力調査と同様に個票として各学生に返却される。

プログラムの実施スケジュールに関しては、新型コロナウイルスの出現により一部変則的であった2020年度を除き、毎年おおよそ表1のとおりである。

2.2 整備した学習環境

(1) Moodle 上のコースと学習教材

本学ではLMS (Learning Management System) として Moodle が稼働しており、Moodle 上に「主体的学び」コースを設置している。このコース内に、先に述べた Step1 から Step5 までをトピックとして配置し、学生はこのコースをいわば TOP ページとして各 Step の作業に入る。具体的には「主体的学び」コースを起点とし、ここから、基礎力調査 (コース)、eポートフォリオ (システムへのリンク)、学習教材 (コース)、および到達度テスト (コース) へ移動する。学習教材のコースは、日本語、英語、数学、情報の4分野にわたって全12コースを設置している。図3に「主体的学び」コースの外観を示す。

(2) e ポートフォリオ

Step2における個票返却ならびに Step3における振り返りとプランニングを行うためにeポートフォリオを整備した。学生は、eポートフォリオシステム上で、基礎力調査の結果である個票をPDFファイルとして入手、閲覧したあと、その内容を参考にしながら高校までの振り返りと今後の大学での学びの計画を入力欄に書き込む。図4にeポートフォリオシステムの外観を示す。

表1 「主体的学び」プログラムの年間スケジュール

各ステップ	実施時期
Step1：基礎力調査	4月
Step2：個票返却	5月末
Step3：振り返りとプランニング	5月末～6月末
Step4：自主学習	5月末～
Step5：到達度テスト	翌年2月～3月末

(3) ラーニング・コモンズとの連携

特に Step4では、ラーニング・コモンズで開催されている学習支援との連携を図ることにより、授業科目内で生じる疑問を解消したり、Moodle 上に搭載された教材の自主学習では習得が難しい汎用的なスキルの向上を促したりしている。

本学のラーニング・コモンズでは、2015年10月の開設以来、大別して「個別学習支援」と「学習セミナー」の2種類の支援メニューが開催されている。例えば、個別学習支援として、高校までの数学の学び直しが可能な「ランチタイム“数楽”」(中嶋・野原, 2014)、レポートや論文の添削を受けることができる「日本語ライティング」(松浦・田村・石垣, 2018)、データ分析の方法について指導を受けることができる「統計アワー」が行われている。また、新型コロナウイルス禍の現在は中断しているが、これまでに「ノート・メモの取り方」「メールの基本」「伝える力」「思考力トレーニング」「ビジュアル化」といった汎用的スキル向上のための体験型の学習セミナーも行われてきた(中嶋・佐藤, 2016)。

ラーニング・コモンズでのこれらの学習支援を本プログラムと連携させ、知識とスキルの両面を含めた学生の多様な学びに可能な限り対応する環境を整備した。

北星学園大学・北星学園短期大学部Moodle 日本語 (ja) NAKAJIMA TERUAKI 中嶋 透明 学生

ナビゲーション

21主体的な学び【2021年度1,2年生全員】

Home > コース > 総合情報センター > 21主体的な学び

北星学園大学「主体的学び」プログラムの概要

このコースは、皆さんの作業の流れにそって構成されています。

- 対象：2021年度1年次生、および、2年次生
- 重要な期限
 - 【Step1】入学時基礎力調査 → 1年次生のみ、実施済み（終了）
 - 【Step2, 3】フィードバックとプランニング 期限：2021年6月30日（水）17:00
 - 【Step4】自主学習 2021年6月1日（火）開始、以降、下の「到達度テスト」の開始時まで。
 - 【Step5】到達度テスト → 1年次生のみ、2022年2月～3月の予定。

各Stepの作業内容は、以下の資料で説明しています。

- 学習のてびき（1年次）
1年次生向けの詳しい説明と操作マニュアルです。
- 学習のてびき（2年次）
2年次生向けの詳しい説明と操作マニュアルです。

【Step1】入学時基礎力調査

1年次生のみ。すでに終了しました。

【Step2, 3】フィードバック、プランニング

Step2：入学時基礎力調査（2年次生は到達度テスト）の結果（復習）を見ます。
Step3：これからの学習の計画を立て、書き込みをします。

具体的な作業は、eポートフォリオ（別のシステム）を使って行います。下のリンクから進んでください。
 システムの使い方および作業の内容については、冊子の「学習のてびき」の6～10ページを読みましょう。
 期限：2021年6月30日（水）17:00

eポートフォリオシステムへ

【Step4】自主学習

下にあるリンクから各学習教材に進むことができます。上のStep3でたてた計画にそって学習に取り組みます。

<日本語>.....

- 「日本語」学習コースへ

<英語>.....

※ redが最も基本的なレベル、greenが最も高いレベルです。
 どのレベルから始めるかについては、個々のコメントに目安が書かれています。（あくまで参考です）

- 画面の説明（操作方法）
- 「英語」学習コース（red）へ
- 「英語」学習コース（rose）へ
- 「英語」学習コース（violet）へ
- 「英語」学習コース（indigo）へ
- 「英語」学習コース（blue）へ
- 「英語」学習コース（green）へ

<数的思考>.....

- 「数学」学習コース（中学1年）へ
- 「数学」学習コース（中学2年）へ
- 「数学」学習コース（中学3年）へ
- 「数学」学習コース（高校1年）へ

<情報>.....


- 「情報」学習コースへ

<スキル系>.....


スキルの向上には、ラーニング・コモンズで実施している体験型の学習セミナーがおすすめです。

- ラーニング・コモンズへ

図3 Moodle上に実装された「主体的学び」のコース



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部



さん、eポートフォリオへようこそ！

[カルテ情報](#) > [情報入門（英）](#) > [のカルテ](#) > [振り返り](#)

[カルテ情報](#)
[ログアウト](#)

カルテ

[検索](#)

- 学料別
- 科目別
- キーワード検索

[振り返り](#)

- 振り返りの作成・編集

のカルテ

[基本情報](#) | [自己登録情報](#) | [振り返り](#) | [留置](#) | [通信欄](#)

[■ 取り組みを見る](#)
[■ 振り返り変化する](#)

[取り組み年表](#)
[表示・非表示](#)

月\年	2021年
1月	
2月	
3月	
4月	
5月	
6月	2021入学時基礎力調査（英文）

2021入学時基礎力調査（英文） 2021/05/25～2021/11/01

さんより	<p>2021年4月の入学時に実施した基礎力調査の結果（個票）を見たらうえて、以下の事柄について入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の傾向や特徴 （強いところや弱いところ、予想どおりのところや予想外のところなど） 高校までの学びの振り返り （力を入れたところ、うまくいったことやいかなかったこと、反省点など） 大学に入学してから2か月を振り返って （高校までの学びと大きく異なる点や、うまくいっている／いっていないことなど） 今後の学びについての計画や目標 （1年次終了まで見据え、個票の内容に関する計画や目標、またそれ以外の計画や目標など） 	個票の見方.pdf	
あなたの振り返り	<p>日本語は、漢検準2級を持っていますが、その割には結果がよくなかったです。また、国語の読解も苦手です。もともと読書は好きなので、授業の隙間や通学時間などを利用してもっとたくさん本を読み、語彙を増やしたいです。また、新聞を読むといいと聞くので、読む習慣をつけて世の中の常識を身につけたいと思います。</p> <p>数学は、中学のときから苦手でした。特に高校の最後の半年は何も勉強しなかったで、すべての科目の中で一番ひどい出来でした。何とか苦手意識をなくしたいですが、具体的にどうすればよいかわかりません。人並みにはできるようにしたいです。</p> <p>英語のリスニングはとても得意なので、点数がよくて安心しました。リスニング教材を使ったり、洋楽の音楽を聞いたりしてこのまま力を落とさずにさらに力をつけたいです。</p> <p>最近、先生の話を聞き逃す、提出物を忘れるなど、授業に身が入っていないと自分で感じます。大学に入ってサークルやアルバイトを始め、とても充実した毎日を送っていますが、でもこのまま楽しいだけではいけないので、気持ちを新たにもう少し学業にも力を入れたいと思います。</p>	2101789.pdf	編集

図4 eポートフォリオシステムの外観および振り返りとプランニングの入力例

2.3 実施状況

本稿では、「主体的学び」プログラムの実施状況の中から、特に以下の事項を報告する。

- 基礎力調査（Step1）の受験率と得点分布
- 振り返りとプランニング（Step3）を実施した学生の割合
- Moodle 上の学習教材を閲覧した学生の割合（Step4）
- 到達度テスト（Step5）の受験率と得点分布

(1) 基礎力調査（Step1）

表2に直近5年間の基礎力調査の受験率を、表3に各科目の得点（平均と標準偏差）を示す。また、図5に、2021年4月に実施した基礎力調査における各科目の得点分布を示す。

基礎力調査の実施にあたっては、新入生オリエンテーションの際に全1年次生に対し予告を行い、授業期間の開始後、必修である大学共通科目「情報入門」の全クラスにおいて担当教員がMoodleの操作を演示しながら受験方法を説明している。

(2) 振り返りとプランニング（Step3）

eポートフォリオシステム上に振り返りとプランニングを書き込んだ学生の割合を表4に示す。

(3) 自主学習（Step4）

Moodle上に搭載されている日本語、英語、数学、および情報の4分野の学習教材のうち、コースへのアクセスログに基づき、いずれかの教材を1回でも閲覧した学生の割合を、直近の5年間にわたって求めた。この結果を表5に示す。

(4) 到達度テスト（Step5）

表6に直近5年間の到達度テストの受験率を、表7に各科目の得点（平均と標準偏差）

を示す。また、図6に、2021年2月から3月までに実施した到達度テストにおける各科目の得点分布を示す。

3. 事業成果を活用したその他の教育実践および分析の事例

本章では、これまで述べてきた「主体的学び」プログラムの他に、事業成果を活用した学内のいくつかの教育実践および分析の事例を報告する。

3.1 学習動機分析

2.1で述べたように、基礎力調査には日本語、英語、数的思考（文系数学）、情報の問題の他に学習動機に関する質問が含まれている。より個別性の高い学習支援をめざす観点から、中嶋（2020）は、学生の学習動機に着目した分析を行い、本学の入学生に関して学習動機の集団的な傾向の把握ならびに学生個人の特徴の抽出を試みた。分析結果から、学習動機は、学生の自己理解ならびに教員側の学生理解のための貴重な手がかりとなり得ることが示された。

3.2 北星ピア・サポーター向けの実践

北星ピア・サポーターは、在学生全体の学びをよりよくするために学生目線でさまざまな企画を立案・実施する学生組織である。2015年度より、学習サポートセンターにおいて人材育成の一環として制度運用されている。

中嶋（2017）は、北星ピア・サポーターを対象に、自らの学びに対する振り返りをきっかけにピア・サポーターとしての存在意義や役割を再認識するための研修を実施した。この研修は、事業成果である加藤・後藤・石井・中嶋（2015）が考案したワークショップ技法を応用したものである。

その他にも、ピア・サポーターとしてのキ

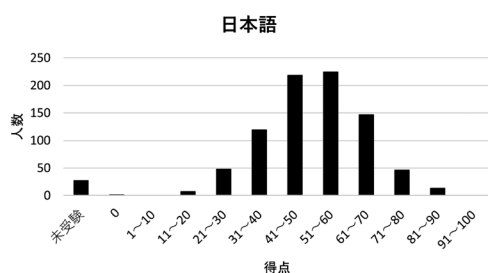
表2 入学時基礎力調査（プレースメントテスト）を受験した学生の割合（％）

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
97.3	98.3	98.3	94.9	96.7

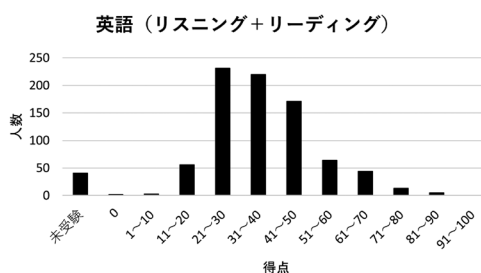
注) 科目間の平均による。

表3 入学時基礎力調査（2021年度）における各科目の得点

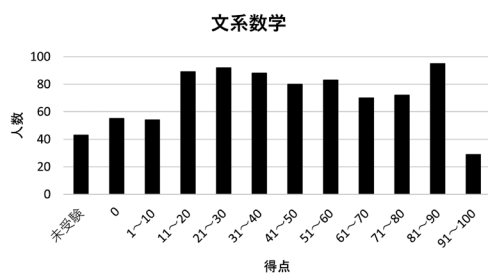
	日本語	英語	数的思考	情報
平均	51.2	38.0	45.0	53.9
標準偏差	13.4	13.9	28.2	17.5



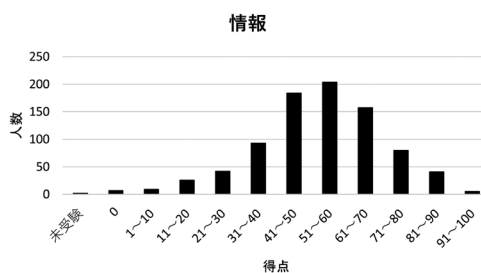
(a) 日本語



(b) 英語



(c) 数的思考（文系数学）



(d) 情報

図5 入学時基礎力調査（2021年度）における各科目の得点分布

表4 eポートフォリオシステム上での振り返りとプランニングを行った学生の割合（％）

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
68.7	71.9	66.8	56.8	71.8

表5 Moodle 上の学習教材を閲覧した学生の割合（％）

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
88.1	86.8	89.1	92.4	97.5

表6 到達度テストを受験した学生の割合（％）

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
84.8	84.0	81.1	78.6	86.4

注) 科目間の平均による。

表7 到達度テスト（2020年度）における各科目の得点

	日本語	英語	数的思考	情報
平均	63.9	44.0	42.2	67.8
標準偏差	13.7	15.2	25.4	14.8

キャリアアップのための自己成長ワークシート「My Project」の開発や、汎用的スキルを測定するためのPROG（リアセック社）の併用など、学士力・社会人基礎力を育成する観点からさまざまな実践を行ってきた。

3.3 IRとしてのデータ活用

基礎力調査および到達度テストで得られる回答に関し、IRとしてのデータ活用の可能性を検討してきた。これまで基礎力調査および到達度テストの結果については、各科目の得点分布を学科ごとに求め、教授会を通して全学共有を図ってきた。2021年度からはIRの一環として、例えば、基礎力調査に比べて到達度テストの得点が上昇（または下降）した学生の割合を科目間で比較するなど、学習効果を検証する試みが始まっている。

なお、本事業における基礎力調査および到

達度テストは元々、振り返りとプランニングを通して学生の主体的な学びを促すことを目的に開発されたものである。振り返りとプランニングを行うためには、現時点での自分の基礎力を何らかの形で可視化することが望ましく、その可視化の一方法としてテストと個票が開発された。テストは、各科目のいわゆる学力を厳密に測定するものではなく、主体的な学びのきっかけを与える環境を整備することをねらいとして開発されたものである。IRとしてのデータ活用の可能性については、回答データの信頼性や妥当性、有用性、活用の限界といったさまざまな観点から今後、議論を重ねる必要がある。

4. まとめ

本稿では、大学間連携共同教育推進事業の

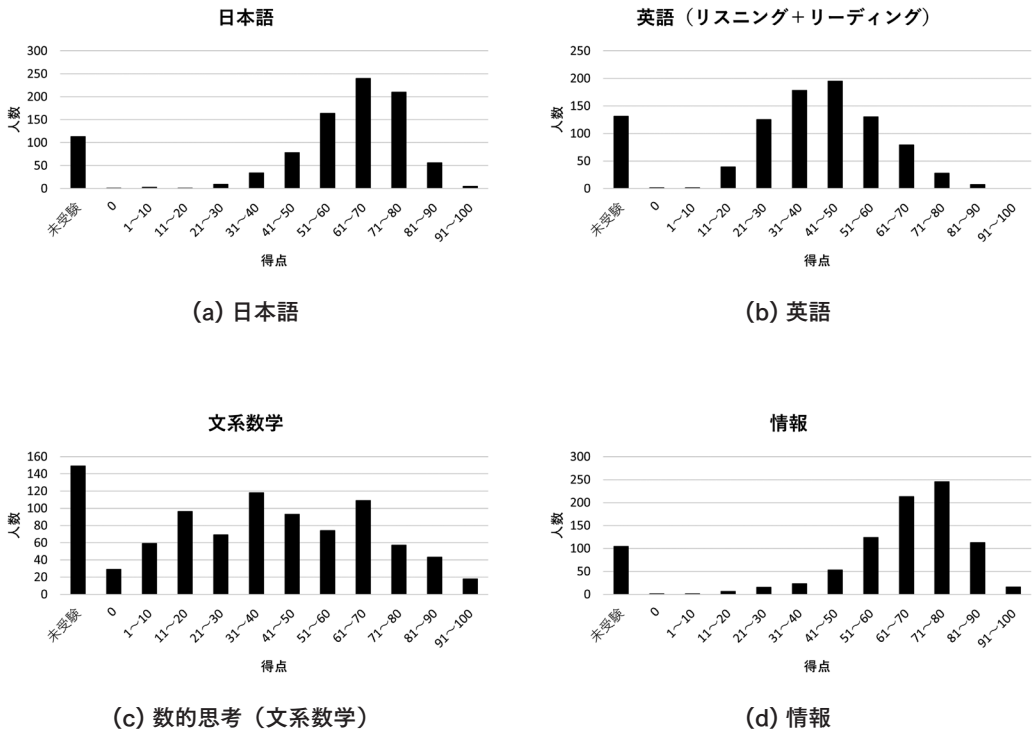


図6 到達度テスト (2020年度) における各科目の得点分布

成果を概観した。主な事業成果である「主体的学び」プログラムに関し、これまで整備してきた学習環境およびプログラムの実施状況を報告した。さらに、事業成果を活用し行われてきたいくつかの教育実践や分析の事例についてもその概略を報告した。

高校では2022年度より「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた新しい学習指導要領が開始されることから、大学では2025年以降のカリキュラムに関する議論が始まっている。本事業はその取組名称にあるとおり、学生の主体的な学びを促進することを最大の目的として取組が進められてきた。今後、事業成果に対する大学としての評価に基づき、事業成果をカリキュラムに導入するといった新しい展開が期待される。

〔謝辞〕

平成24 (2012) 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業を推進するために学内に発足した「大学間連携事業プロジェクト」のメンバーによる多大な尽力に対し深謝する。

〔注〕

- (1) 本事業のステークホルダーは、大学eラーニング協議会、日本情報科教育学会、日本リメディアル教育学会、の3団体であった。
- (2) 一部の教材については、松浦・中嶋 (2015) のように授業科目の中でも活用しているケースがある。

〔引用文献〕

- 加藤竜哉・後藤真・石井美和・中嶋輝明 (2015). あなたにとって学ぶ意味とは？—学びの意義づけを促す学生交流ワークショップの実践. 日本リメディアル教育学会第11回全国大会発表予稿集, pp.158-159.
- 松浦年男・中嶋輝明 (2015). 全学共通日本語科目における e ラーニング教材活用の試み. 8大学連携・大学 e ラーニング協議会合同 FD・SD フォーラム予稿集, pp.13-14.
- 松浦年男・田村早苗・石垣佳奈子 (2018). 北星学園大学における日本語ライティング個別支援の試み. 北星学園大学文学部北星論集, 56 (1), pp.1-13.
- 中嶋輝明 (2017). 学びの意義づけに着目したピア・サポーターのためのワークショップの試み. 日本リメディアル教育学会第13回全国大会発表予稿集, pp.56-57.
- 中嶋輝明 (2020). 大学入学時の学習動機に見られる特徴:「入学時基礎力調査」の結果から. 北星学園大学文学部北星論集, 57 (2), pp.69-84.
- 中嶋輝明・片岡徹・松浦年男・金子大輔・野原克仁 (2013). 全学を対象とした入学時基礎力調査の試行的実施. 日本リメディアル教育学会第9回全国大会発表予稿集, pp.8-9.
- 中嶋輝明・野原克仁 (2014). 文系学生に対する数学の基礎力向上の試み:「ランチタイム数学」での取り組みから. 大学 e ラーニング協議会・大学間連携共同教育推進事業合同フォーラム予稿集, pp.46-47.
- 中嶋輝明・佐藤淳哉 (2016). 主体的な学びへ導くための学習支援環境の整備—ラーニング・コモンズにおける実践事例を中心に. 大学 e ラーニング協議会総会・フォーラム2015予稿集, pp.42-43.

